

(3)作業環境の改善対策

作業環境中のPCB及びダイオキシン類濃度が比較的高い以下のエリアについては、作業環境の改善対策を検討し、順次実施しています。

1) 小型解体室及び大型解体室

平成23年から24年にかけて小型解体室のフライス盤周りの囲い込みと集じん機の設置を行い、平成24年から25年にPCB等の蒸散を抑えるため空調設備を改善して室温低下を図りました。大型解体室は、平成27年11月に基準値(0.01 mg/m³)を超えましたが、フライス盤からの切粉等が機械装置の下部や床面などに堆積し、通常では掃除が困難な箇所を定期点検時に重点的に徹底的な清掃と除染を実施し、平成28年1月以降、基準値以下を維持しています。

2) VTR処理室

ダイオキシン類濃度につきましては、平成25年度に、未処理品の一時置場付近を中心にVTR搬入棚、VTRステーションテーブル、設備メンテナンス用グリーンハウスに局所排気装置等を設置した結果、平成25年11月以降、管理濃度(2.5 pg-TEQ/m³)以下を維持しています。

3) 大型抜油室、小型抜油室、タンク室

大型抜油室及び小型抜油室はダイオキシン類の管理濃度を超えていますので、引き続き定期点検時に、機器下部等作業時には実施の困難な場所も含めて清掃・除染を実施します。

タンク室については、平成27年夏の定期点検時にストレーナー改良による清掃作業の改善、局所排気装置の増強対策工事を実施した結果、ダイオキシン類濃度の低下が認められ管理濃度以下を維持しています。

4) 蒸留室、中間処理室

両室とも1階から5階までグレーチングによる吹き抜け構造で、熱源となる蒸留塔が存在するため、温度の低下や清掃が困難な場所で、ダイオキシン類の管理濃度を超えています。機器の開放点検が主な汚染の原因となっていると思われませんが、定期点検時には重点的に清掃・除染を実施しています。

(4) 作業従事者の健康管理

当社のPCB廃棄物処理施設では、作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施に加え、血中PCB及びダイオキシン類濃度の測定を定期的に行い、目標値との比較による管理を行っています。

大阪事業所においては、PCB廃棄物を取り扱うエリアで作業する作業従事者を対象に採血し、毎年6月を目途に血中PCB及びダイオキシン類濃度を測定しています。

平成28年度までの状況については、血中PCB濃度に関しては全員が目標値(25ng/g-血液)を下回っていました。

血中ダイオキシン類濃度については、環境省の調査結果(ダイオキシン類関係作業に従事していない者を対象とした調査)と同等又はそれ以下をJESCOの当面の健康管理の目安としています。

平成28年6月の測定結果では、平成23～25年度の環境省調査結果(0.40～56pg-TEQ/g-lipid)と比較するとほぼ同等の結果となりました。

また、各作業従事者に測定結果を通知する際、作業内容や安全衛生上の注意事項の遵守状況等をヒアリングし、保護具の適正な装着方法(フィットテスト等)、経口的な摂取に関する注意、手洗い及びうがいの励行等を指導しています。

今後も測定を維持し、健康管理を進めてまいります。

5. ヒヤリハット・キガカリの取り組み状況

ヒヤリハット・キガカリ活動は、事業所の安全レベル向上と危険のない職場づくりのために、積極的に取り組んでいます。従業員から提出された案件は、タスクチームで1件毎に内容を確認し、改善が望ましいと判断した案件については確実に改善を進め、その内容は毎月開催されるJESCO／運転会社の安全衛生協議会で報告されています。

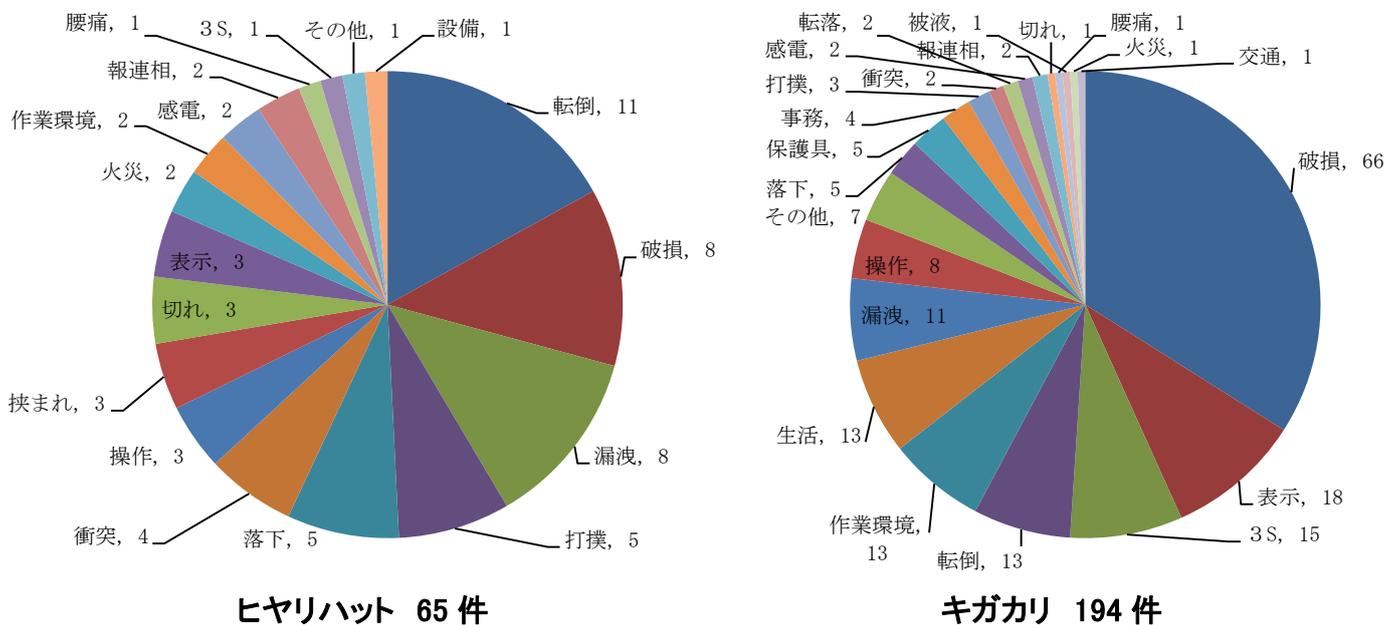
提出された件数は（表－16）、平成28年4月から12月の間に提出されたヒヤリハット・キガカリ案件の項目別分類は（図－7）に示すとおりです。

表－16 ヒヤリハット・キガカリの提出件数

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28*
ヒヤリハット	78	162	21	66	99	75	78	40	98	98	65
キガカリ	41	357	168	293	247	205	306	171	236	236	194

12月末まで

図－7 ヒヤリハット・キガカリ項目別件数（平成28年4月～平成28年12月）



またトラブルの未然防止策をより有効に進めるため JESCO 5 事業所においてHHK案件のリスク評価を行いリスクが高いもの（リスクレベルⅢ以上）については、本社に報告し各事業所に水平展開をするとともにリスク評価は、(表-17)リスクの見積もりを元に評価し(表-18)にその評価結果を示します。

表-17 リスクの見積もり

【労働災害に係るリスク評価】 対象：ヒヤリハット情報 ヒヤリハットとは、作業中にヒヤリ又はハットするような、一歩間違えばトラブルに結びつく事象																						
<table border="1"> <tr><th>人への危害</th><th>点数</th></tr> <tr><td>死亡・重傷</td><td>10</td></tr> <tr><td>休業災害</td><td>6</td></tr> <tr><td>不休災害</td><td>3</td></tr> <tr><td>微小</td><td>1</td></tr> </table>	人への危害	点数	死亡・重傷	10	休業災害	6	不休災害	3	微小	1	+	<table border="1"> <tr><th>可能性</th><th>点数</th></tr> <tr><td>確実</td><td>6</td></tr> <tr><td>大</td><td>4</td></tr> <tr><td>有</td><td>2</td></tr> <tr><td>無</td><td>1</td></tr> </table>	可能性	点数	確実	6	大	4	有	2	無	1
人への危害	点数																					
死亡・重傷	10																					
休業災害	6																					
不休災害	3																					
微小	1																					
可能性	点数																					
確実	6																					
大	4																					
有	2																					
無	1																					
=																						
<table border="1"> <tr><th>リスクレベル</th><th>リスクポイント</th><th>リスクの程度</th></tr> <tr><td>Ⅳ</td><td>12~16</td><td>安全衛生上重大な問題有り</td></tr> <tr><td>Ⅲ</td><td>7~11</td><td>安全衛生上問題有り</td></tr> <tr><td>Ⅱ</td><td>5~6</td><td>安全衛生上多少問題有り</td></tr> <tr><td>Ⅰ</td><td>~4</td><td>安全衛生上問題なし</td></tr> </table>	リスクレベル	リスクポイント	リスクの程度	Ⅳ	12~16	安全衛生上重大な問題有り	Ⅲ	7~11	安全衛生上問題有り	Ⅱ	5~6	安全衛生上多少問題有り	Ⅰ	~4	安全衛生上問題なし							
リスクレベル	リスクポイント	リスクの程度																				
Ⅳ	12~16	安全衛生上重大な問題有り																				
Ⅲ	7~11	安全衛生上問題有り																				
Ⅱ	5~6	安全衛生上多少問題有り																				
Ⅰ	~4	安全衛生上問題なし																				

表-18 ヒヤリハット情報のリスク評価（平成 28 年 4 月～平成 28 年 12 月）

月 リスクレベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Ⅳ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ	0	1	1	3	3	1	1	2	0	12
Ⅰ	5	6	8	13	6	2	6	2	5	53
合計	5	7	9	16	9	3	7	4	5	65

6. PCB 廃棄物処理施設設備改造・運用変更

当社が規定する「PCB 廃棄物処理施設設備改造・運用変更管理規程」に基づいて、平成 28 年度に開催された環境安全評価（SA）委員会で審査された設備改造や運用変更の案件は(表-19)のとおりです。

表-19 SA 委員会(審査案件)

年度	No.	件 名	SA 委員会開催日
平成28年度	1	VTR-D号機 HCL 除去用スクラバー本設工事	H28年5月12日
	2	安全作業マニュアル見直し「活性炭処理・ろ過・排出」	H28年6月28日
	3	廃活性炭処理シーケンス改造	H28年7月22日
	4	廃粉末活性炭前処理対策工事 (粒状活性炭除去設備・伝熱促進体打込み設備等)	H29年1月25日

7. 営業活動

(1) 平成 28 年度 の 取 組 み

- 1) H27 年度に実施した和歌山県の総ざらいトライアル結果を踏まえて他の地域への展開を図り、H28 年度は滋賀県（大津市含む）、奈良県（奈良市含む）で総ざらい活動を実施しました。（7 月～10 月）。和歌山県については、地域専任担当者を配置し、処理の促進を進めています。
- 2) 中部近畿産業保安監督部が企画した平成 28 年度電気使用安全月間説明会の場で、JESCO への早期登録、早期処理を働きかけました。
2 府 4 県の電気主任技術者等が対象で、11 会場、約 2,000 名が参加しました。（7 月に実施済）。
- 3) 大阪府、大阪市の未処理保管事業者の処理促進を行なっています。（11 月～2 月）

(2) 滋 賀 県 及 び 奈 良 県 の 総 ざ ら い 結 果

1) 滋 賀 県 （全登録者数 839 者）

- ア) 対象保管事業者は、79 者（登録済：62 者、未登録：17 者）です。
- イ) 登録済 62 者のうち 40 者が今回処理の意向です。今回処理の意向なしは 22 者です。
- ウ) 未登録 17 者中 11 者が登録し、そのうち 8 者が処理の意向です。今回処理の意向なしは、3 者です。
- エ) 今回処理の意向なしは 25 者（登録済：22 者、今回登録：3 者）です。（連絡を試みた結果、所在不明の者等を含む）
 - A：費用負担等の処理拒否 10 者
 - B：所在不明（倒産等含む） 8 者
 - C：使用中 3 者
 - D：その他（承継者不明等） 4 者

2) 奈 良 県 （全登録者数 677 者）

- ア) 対象保管事業者は、159 者（登録済：96 者、未登録：63 者）です。
- イ) 登録済 96 者のうち 53 者が今回処理の意向です。今回処理の意向なしは 43 者です。
- ウ) 未登録 63 者中 8 者が登録し、そのうち 5 者が処理の意向です。今回処理の意向なしは、3 者です。（JESCO 未登録の保管者 55 者は多数のためデータを行政確認中）
- エ) 今回処理の意向なしは 46 者（登録済：43 者、未登録：3 者）です。（連絡を試みた結果、所在不明の者等を含む）
 - A：費用負担等の処理拒否 13 者
 - B：所在不明（倒産等含む） 6 者
 - C：使用中 5 者
 - D：その他（処理時期未定等） 22 者

3) 今 後 の 滋 賀 県 、 奈 良 県 へ の 取 組 み

行政の指導により処理を同意した保管事業者に対しては、地域専任担当者を配置し、早期処理を進めます。

(3) 保管事業者説明会の開催

PCB廃棄物の円滑な処理を進めるため、平成28年6月からは8巡目の説明会に入っています。今後も保管事業者の方への説明会を開催するなど、PCB廃棄物の早期処理完了に向けて取り組みます。

表-20 近畿2府4県(大阪市を除く)保管事業者説明会の実施状況

開催時期		対象地域	回数	出席事業者数
1巡目	平成20年7月～平成21年11月	2府4県	33	915
2巡目	平成21年11月～平成22年11月	2府3県	30	1,192
3巡目	平成23年1月～平成23年11月	2府4県	27	605
4巡目	平成24年1月～平成25年1月	2府4県	22	542
5巡目	平成25年1月～平成25年10月	2府3県	17	646
6巡目	平成26年2月～平成27年4月	2府4県	25	909
7巡目	平成27年5月～平成28年4月	1府2県	20	606
8巡目	平成28年6月～平成28年12月	2府2県	11	172

8. その他説明事項

(1) 視察・見学状況

平成18年10月に見学受入を開始して以来、平成28年12月末現在で延べ1,356団体、10,427人の方が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係(PCB廃棄物保管事業者を含む)、行政関係、環境関係団体等の方々です。

表-21 視察・見学者数

(人)

年月	総数	企業関係	環境関係団体等	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海外
平成18年度	2,129	793	790	113	282	62	55	34
平成19年度	3,333	1,511	1,018	527	148	44	40	45
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30
平成21年度	650	237	183	19	79	64	51	17
平成22年度	624	152	212	34	87	101	26	12
平成23年度	482	231	51	2	128	23	36	11
平成24年度	501	176	149	1	75	60	31	9
平成25年度	465	189	80	1	175	6	14	0
平成26年度	518	158	141	21	111	81	0	6
平成27年度	280	100	77	1	60	34	1	7
平成28年4月～12月	345	66	169	1	54	34	0	21
合計	10,427	3,929	3,300	733	1,367	561	345	192

「環境関係団体等」：環境関係団体や議会等の各種団体

(2) 緊急時対応訓練実施状況

平成28年度は「漏洩」をテーマとして各班、グループ毎に個別事象を設定して取り組んでいます。今後も毎月1回の実施を予定しています。

5月は、自衛防災隊による総合訓練を行い消防署の立会及び講評を頂きました。11月の消防訓練では担架組立搬送、放水、テント組立、消火器操作訓練を実施し、12月の震災訓練では通報、避難訓練を行いました。

表-22 緊急時対応訓練実績

月日	訓練内容
平成28年 5月 6日	緊急時対応訓練 (漏洩/VTR グループ)
5月26日	総合訓練 (通報・消火・避難・救助訓練) 此花消防署立会
6月29日	緊急時対応訓練 (漏洩/VTR グループ)
7月27日	同上 (漏洩/解体グループ)
8月25日	同上 (漏洩/解体グループ)
9月21日	同上 (漏洩/分析グループ)
10月24日	同上 (漏洩/液処理グループ)
11月17日	消防訓練 (担架組立搬送・放水・テント組立・消火訓練)
12月 8日	震災訓練 (通報・避難訓練)

① 消防訓練 (平成28年11月17日)

消火器操作訓練



担架での搬送訓練



② 震災訓練 (平成28年12月8日)

対策本部



避難訓練

